

index

2019〈第19号〉

- 医師連盟委員長挨拶
- 兵庫県医師連盟定時委員総会議決事項
- 羽生田たかし参議院議員、
研修医ウエルカムパーティーにてご挨拶!
- 兵庫県医師連盟と自由民主党県議会議員との懇親会
- 平成31年統一地方選挙(兵庫県)結果
- 議員対談 衆議院議員 谷 公一氏
- 郡市区医師連盟だより(神戸市医師連盟 長田支部)

兵庫県医師連盟ニュース

発行所 兵庫県医師連盟

〒651-8555 神戸市中央区磯上通6-1-11

Tel 078-231-4114

http://www.hyogo-ishirenmei.jp

編集責任者 松本 卓



医師連盟委員長挨拶



兵庫県医師連盟

委員長 松本 卓

トとして、郡市区医師連盟役員は元よりすべての連盟会員からのサポーター名簿の提出を、目指したいと考えます。是非ともご協力くださるようお願い致します。

令和元年も一月が経過しましたが、先の統一地方選挙では会員の先生方の多大なご尽力で大きな成果を挙げられたことに感謝申し上げます。いよいよ7月には参議院選挙が行われます(7月4日告示、7月21日投票の予定)。

兵庫県医師連盟は比例区において「羽生田たかし」氏と政策協定を結び、推薦を決定していますので、是非とも活発な支援活動をお願い致します。

羽生田たかし氏は日本医師会の元副会長であり誰よりも医療政策に精通しておられ、我々の代弁者となってくださる方であるため絶大な支援をお願いしているところですが、支援活動の一環として取り組んでいる「羽生田たかしサポーター名簿」の獲得は5月中旬時点では、残念ながらことに都道府県医師連盟の中でもかなり下位の獲得状況で厳しい現状です。ラストスパー

再確認をお願い致します。

兵庫県医師連盟定時委員総会議決事項

(1) 平成31年4月14日(日)に兵庫県医師会館で開催し、「平成31年度事業計画」、「平成31年度予算」、「平成31年度会費賦課徴収」の3議案について、原案通り可決されました。

(平成31年度事業計画)

医師の政治力強化を図り、もって「国民皆保険制度の堅持」、「地域保健医療活動の強化」、「平等で安全な医療提供体制の確保」並びに「医療経営基盤の確立」等各種施策の実現のため政治活動を展開する。

一、政治活動

- ①県下首長・議員に対してのロビー活動展開。
- ②県選出国会議員はマンツーマン方式による。
- ③郡市区医師連盟における地方自治体首長、選挙区県議会議員、市町議会議員へのロビー活動に対する支援。
- ④兵庫県議会自由民主党保健医療推進議員連盟との連携強化。
- ⑤選挙活動の展開

療政策実現化に向けての県予算化要望。

④兵庫県議会自由民主党保健医療推進議員連盟との連携強化。

⑤選挙活動の展開

1) 第25回参議院議員選挙における日医連推薦候補者(羽生田たかし氏)の選挙支援活動を強力に展開する。

2) 統一地方選挙における医師連盟推薦候補者の選挙支援活動を展開する。

3) 各選挙における医師の政治力(集票能力)を示すため、各地区(小選挙区等)での医師連盟推薦候補者の支援活動を強力に展開する。

二、広報活動

県民並びに関係団体に対して、強く医師連盟の理念と医療政策を訴え、理解を得るよう努め、広く県民等を巻き込んだ世論の形成を目指す。

- ①フォーラム等県民並びに関係団体等参加の集会開催。
- ②医師連盟ニュースの企画・編集、定期発行並びに関係団体

への配布。

③医師連盟ホームページの内容の充実。

三、対内活動

医師連盟会員への医療政策の啓発とそれを実現させる為の政治活動への参画意識の昂揚を図る。

- ①医師連盟若手会員の育成。
- ②医療政策を政治に反映させる方策の検討。

四、各関係団体との連携強化

関係団体との強固な連携のもと、医療施策の実現化の為に政治活動を展開する。

- ①日本医師連盟との連携
- ②近畿各府県医師連盟(医師政治連盟)との連携
- ③兵庫県歯科医師連盟、兵庫県薬剤師連盟との連携
- ④その他の関係団体との連携

(2) 令和元年6月16日(日)に兵庫県医師会館で開催し、平成30年度会務実績の報告、承認を受け、また「平成30年度収支決算」、「連盟規約一部改正」の2事案について、原案通り可決されました。

第25回参議院選挙
家族、従業員、お知り合いも
誘って投票に行きましょう!!

☆投票用紙の2枚目(全国比例区)には、
候補者名を書きましょう!

☆投票されたら、「投票済証」をもらい、
郡市区医師連盟にご提出下さい!





羽生田たかし参議院議員、 研修医ウエルカムパーティーにて ご挨拶！

平成31年4月6日（土）に開催された「研修医ウエルカムパーティー」に羽生田たかし参議院議員がご出席され、第一樓にて行われたパーティーには、研修医178人と指導医や役員を合わせて総勢248名の参加があり、大勢の若者が集まる前でご挨拶された。



原古三保健医療推薦議員連盟会長

その後、神戸市医師会役員の先生方と懇談され、翌日、朝一番の飛行機にて東京へお戻りになった。



挨拶するかた裕之氏

去る2月14日に神戸市内の中華料理店において標記の会が開催されました。県会議員（当時）が20名、医師連盟からは委員長を筆頭に15名、事務局なども合わせると合計39名の参加でした。橋本寛常任執行委員の司会で開会。足立医師連盟副委員長と原保健医療推進議員連盟会長のご挨拶のあと橋本常任執行委員より情報提供があり、藤原自由民主党兵庫県支部連合会幹事長のご発声で乾杯。その後懇親を深め、

報告
**兵庫県医師連盟と兵庫県議会
自由民主党議員団との懇談会**
兵庫県医師連盟執行委員 野々垣 真佐史

兵庫県医師連盟ホームページ
随時更新中

兵庫県医師連盟 検索

http://www.hyogo-ishirenmei.jp

平成31年統一地方選挙（兵庫県）結果

本年4月に実施された平成31年統一地方選挙において、県医師連盟では各郡市区医師連盟からの推薦を受けて各選挙での候補者推薦を行いました。

兵庫県議会議員 4月7日（日）

推薦候補者 23名 当選 22名
— 当選された方々 —

医師会名	推薦候補者名	党名・党派別
灘区	北浜 みどり	自由民主党
中央区	原 吉三	自由民主党
兵庫区	松田 いっせい	公明党
北区	あしだ 賀津美	公明党
長田区	こしだ 浩矢	公明党
長田区	かわべ 宣宏	自由民主党
須磨区	しま山 清史	公明党
垂水区	吉岡 たけし	自由民主党
垂水区	黒田 一美	ひょうご県民連合
尼崎市	黒川 治	自由民主党
尼崎市	谷井 いさお	公明党
西宮市	北川 泰寿	自由民主党
西宮市	栗山 雅史	立憲民主党
明石市	松本 隆弘	自由民主党
明石市	伊藤 勝正	公明党
西脇市多可郡	内藤 兵衛	自由民主党
加古川	岡 つよし	自由民主党
高砂市	山本 敏信	自由民主党
姫路市	戸井田 祐輔	自由民主党
姫路市	水田 裕一郎	自由民主党
佐用郡	長岡 壯壽	自由民主党
豊岡市	かどま 雄司	無所属

神戸市議会議員 4月7日（日）

推薦候補者 16名 当選 16名
— 当選された方々 —

医師会名	推薦候補者名	党名・党派別
灘区	吉田 健吾	自由民主党
灘区	高瀬 勝也	公明党
中央区	河南 忠一	自由民主党
兵庫区	すがの 吉記	公明党
兵庫区	守屋 隆司	自由民主党
兵庫区	平野 達司	自由民主党
北区	伊藤 めぐみ	立憲民主党
北区	どうした 豊史	公明党
北区	とくやま 敏子	公明党
北区	うえなか 雅子	自由民主党
長田区	平井 まち子	自由民主党
須磨区	松本 しゅうじ	自由民主党
須磨区	むらの 誠一	自由民主党
須磨区	安達 和彦	自由民主党
垂水区	しらくに 高太郎	自由民主党
西区	山口 由美	自由民主党

西宮市議会議員 4月21日（日）

推薦候補者 7名 当選 7名
— 当選された方々 —

推薦候補者名	党名・党派別
植田 篤治	自由民主党
大川原 成彦	公明党
上谷 幸美	自由民主党
坂上 明	自由民主党
篠原 正寛	自由民主党
八木 米太郎	無所属
山田 増人	公明党



藤田 本日はお忙しい中、お時間をとお取りいただきましてありがとうございます。

それでは、早速ですが、谷先生のご経歴などをお聞かせ願えたらと思います。

谷 私は、但馬で生まれ、高校までは但馬で育って、大学は東京でした。

就職は兵庫県庁に入って、数年してから自治省、今の総務省に5年ほど人事交流で働きまして、30歳でまた兵庫県庁に戻って、それから10年余り、主に財政のほうを担当していました。それで課長になってからは企業庁、そして県民生活部という、健康・福祉・文化・環境を所管する部で、総務課長をして、その後、防災局長と政策室長を務め、それから後、父が衆議院議員でしたので、議員に。平成15年ですから、もう16年になります。

て体制が不十分であったし、神戸市も、ましてや国もです。一番政治が必要とされているときにその準備もできなかった、備えもしてなかった。対応は、もちろんみんな一生懸命やりましたが、何せどうしてやっていかかわらないということでしたから、そういう面での政治の役割というか、その必要性を肌身で痛感させられたということも一つの大きな契機ですね。

藤田 ちょうど阪神淡路大震災のときは、先生は県庁におられたんですか。

谷 県庁の予算の総括的なことをしていました。あの時は、とにかく突然でしたし、私の住まいは名谷でした。

往々にして人は大変な時はまず身近な周りを見て判断しますね。外に出てみないとわからない。真っ暗で、音も何も聞こえない。

ない。名谷団地はほとんど被害がなかったんです。そのうちテレビを見て、何というこっちゃ、どれくらい被害を受けているのか、まずわからないですね。徐々に被害の状況が判るにつれ、何が必要なのか、国の支援策がどのようにあるのか、どういう仕組みになっているのか、まず仮設住宅というのをつくらなきゃならない。ただ、今までの災害の歴史の中で、最大の仮設住宅でも数十戸だったんです。それで、とりあえず5,000戸くらいで国に要望しました。当時の建設省が言われたことは、5,000戸の根拠は何か、調査したのか、なぜ5,000戸なのか。東京の感覚でそんなことを言われても、あの当時、小学校に何人避難しているかわからない。後で40万人近いとわかりましたが、けれども、その当時はわからない。まして仮設住宅がどれだけ必要なのか皆目見当もつかない。しかし、まあいろんなことから見て10,000戸はいくらだろうけれども、とりあえず、000戸ということとで準備をしようかということとで、国と協議したんです。

その後、中越、東日本、熊本の地震でその様なことを言う人はいなくなりましたけど、仮設住宅にしても、がれきの処理でも、今は当たり前のように行政

がやるということですが、当時はその議論から始まって、個人の住宅の壊れたのをなぜ行政がやるのかと。伊勢湾台風の時にどうしたのかと。

藤田 そうですね。どうだったのでしょうか。

谷 です。それから、そういう議論から始めて、国ともいろんな意味で、戦後50年目に大都市を襲った、豊かになってからの初めての大きな災害でしたので、仮設住宅の問題にしても、公営住宅の問題、がれきの問題、医療の問題でも、とにかく、今から思えば、国も兵庫県も神戸市も、ましてやほかの市町村も、全くと言っていいほどそういう準備も出ていなかった。想定もしていなかった。だから備えがないというところから始まって、ある面では確かに大変でしたけれども、そういう経験というのはいろんな意味で苦い勉強になったと思います。

藤田 そうですね。阪神淡路大震災の教訓があったから、東日本の震災の時は比較的動きが早かったです



谷衆議院議員 藤田執行委員

ね。

谷 そうですね。それを契機にして兵庫県も、24時間のそういう体制づくりをし、危機管理職員の宿舎を県庁から歩いて3分のところに宿舎も建てました。国もすぐに緊急参集できるように体制にしたのは、阪神淡路大震災がまさに契機ですね。

藤田 そうですね。

谷 その後も、苦い教訓が生かされています。ただ、東日本の場合は、地震、津波に加えて原発事故というのがあった。それこそ想定外というのか、これはまさに初めてですからね。そういう大変なこともあって、まだまだ福島は時間がかかるかと思っています。

藤田 先生は今、政治では何に一番尽力いただいているのですか。やっぱり防災ですか。

谷 そうですね。

藤田 地域医療構想の中で一点すごく気になるのが過疎の地域というの、当然産業がなく医療が充実していないのが現状です。東北、北陸、山陰地方では特に大きな問題となっています。医師の働き方改革については、とりあえず5年後までにきっちりと決めて、5年後からスタートと言われています。その中で私が一番危惧していることは、28時間の連続勤務を認めないという文言です。

兵庫県というと三田より北部や西部の地域では、先生方に一泊二日で病院に勤務していただいているという事情があります。皆さん大体姫路や神戸、大阪にご自宅があり当然通勤となると遠距離を、一日目の朝に出動して日勤をして頂き、引き続き当直勤務をされて、翌日の日勤終了後に帰宅して頂いています。勤務されている先生もその勤務体制の方が肉体的にも負担が少なく、病院側も二日間にあたり医師を確保できるといったウィンウィンの関係で成り立っています。しかし、28時間の勤務時間制限が設定されてしまうと、この勤務パターンが不可能になってしまいます。働き方改革ということでやみくもに勤務時間の短縮などを設定すると、過疎地域の医師偏在問題に拍車をかけるのではないだろうかと考えています。

(三面より)

確かにドクターの健康を気に遣っていたらというのは嬉しいのですが、医師確保の体制が整うのだからと、病院を経営している側としては大変危惧しているところです。

谷 働き方改革が、どう病院のほうに響いてくるのか問題ですね。

藤田 そうなんです。

谷 それぞれの地域の医療も、また、医師の健康面もしっかり確保しなきゃならない。その一見相反することをどう両立させるのかというのが今大きな課題になっている。

働き方改革と直接はリンクしないんですけど、特に自治体病院などでは、例えば、超過勤務とか、そういうことも非常にルーズだったんですね。

今、正面から支給されない裁判に訴えたりする例も大分増えています。ほとんどは病院側が負けている。勤務実態から見れば払わなきゃならないと裁判所は理屈で言いますから。

この4月から施行ということですが、ドクターの問題、それから建設業なども猶予されているんです。

藤田 そうですか。

谷 5年間猶予されているんですけど、そういう猶予されている業種というか、職種という

か、それをどう地域医療の確保なり、あるいは業界としてやっていかなければならないかです。から、そこが大きな課題だと思っています。

藤田 何でも杓子定規で測れる問題ではないので、いろんな分野の学識者が、それぞれの考え方があっては理解しているつもりです。私達は何より医師の偏在解消で、過疎地でも十分な医療を受けられる様に良い政策を考えて頂ける事を望みます。

谷 偏在の問題は前から言われていて、ずっと以前は大学の医局から派遣ということで、全国の多くの地方はそれに助けられていました。

ただ、若いドクターの自由というか、そんな強い縛りがおかしいのではないかとこの改革された。改革されると、医局もそれだけの余裕がないから非常に厳しくなってくる。

そこを以前に戻すというのは、実際問題難しいと思うんです。いろいろ自治体のほうでも、あるいは病院でも、奨学金制度をしたり、いろんな努力をしていますので、できる限り、どこに住んでいても、医療は確保されるということは政治として必要なんです、そこは力を入れていかなきゃならないと思うんです。

藤田 多くの先生方に聞いてみたところ、やはり子供の教育環境がネックになるようです。

過疎地では受験戦争に取り残されるのではないかと、学校数が少ないとか学校を選択できないとか、進学校が少ないとか、そういった問題が切実なのは否定しきれません。じゃあそういう過疎地ですらやって医師に勤務してもらうかという、単身赴任という選択肢になります。単身赴任となれば、当然それなりのメリットがないと医師は集まりません。そういった過疎地に学校を造るとなると、それはもっと大きな問題になります。

どういったメリットを与えれば単身赴任でも過疎地に勤務して頂けるか、そういう視点から考えて頂いてもいいかなと思います。

私は実は自宅は大阪府箕面市なんです。実家が千里ニュータウンなので、親元のすぐ近くに家を建てました。子供の教育があるのだから三田市に単身赴任しているんです。

谷 三田市はいいですよ。

藤田 はい、三田市はとても環境も良く交通の便も良いと認識しています。しかし三田市より北部や西部になると、大阪からでは通勤が困難で、間違いなく単身赴任という方法しかなくなってくるんです。実は私は

三田西病院の院長になってから単身赴任を始めました。勤務医の時と違い院長になるといつ何時呼び出されるかわからないので、三田市に単身赴任をしています。都心部から離れた病院というのは、家族揃って引越すというのはなかなか難しいので単身赴任になります。しかしそれなりのメリットがないと、単身赴任で勤務して頂ける先生が見つからないという事を理解していただき、政策を練って頂けると嬉しいですね。

谷 例外的に公立豊岡病院に救急医は20数人います。あれはなぜかという、リーダーが大変著名な人ということと、ドクターヘリは日本一出動回数が多いということから、若い人も数年間ならあそこに行けば勉強になるというわけです。

藤田 看板ですね。

谷 そういうメリットがあれば、ずっとドクターがいてくれるかというとは別としてそこであれば救急医として勉強になるとか、そういう特色を持つことも必要だと思いますね。

藤田 はい。

谷 医療もいろんな課題がありますけれども、大事なことは今の国民の皆保険、それから皆年金、それから皆介護とは余り言いませんけれども、少なくとも、所得に関係なく、誰でも医

郡市区医師連盟だより

【神戸市医師連盟 長田支部】

この度、令和元年に行われる参議院選挙（兵庫県選挙区）に自民党より公認立候補予定の加田裕之さんを紹介、そして推薦いたします。

サフリーマン家庭に育った加田裕之さんは、平成5年に甲南大学卒業後、神戸新聞社に勤務。平成7年1月17日阪神淡路大震災を経験し、記者として、被災地の復興状況取材し、被災者の生の声に触れることで、政治

療機関を受診できる、それから、基本的に誰でも一定期間納めるという前提ですけども、年金をもらえると。

それから、人は年齢を重ねると認知症になるということは避けられないですから、多かれ少なかれ、そのための手当をしっかりするということは、これから間違いなく高齢化は進むことは目に見えているわけですから、その基本のところは頑張らなければならないというふう

に思っています。

藤田 先生、本日はお時間を取っていただきましてありがとうございます。

また、今後も引き続きのご活躍を期待しております。

の世界を志すきっかけとなりました。平成8年から、故・奥谷通衆議院議員の公設秘書として、地元の声を中心に伝えてきました。平成15年には、自民党

より県会議員選挙に出馬し、大激戦の末、初当選を果たしました。当選後、加田さんは、持ち前のバイタリティーで活動し、その実力が認められ、自民党兵庫県連青年局長、第121代兵庫県議会副議長、自民党県議団幹

事長などの重職を歴任し、県民のため、自民党のために全力投球されました。兵庫県議会での活躍だけでなく、井戸知事に地域活性化のため「元気な社会」は「安心・安全」からの信念のもと、政策を次々と提案されてきました。これらの活動を認められ、自民党県連は平成30年6月23日、総務会を開き、参院選の

兵庫県選挙区で、引退表明した鴻池祥肇参院議員の後継として、加田裕之氏を公認候補として上申すると発表しました。その席で、加田氏は「防災をはじめ、安全安心に関する分野に注力したい」と語っています。

私たち長田区医師連盟は、加田さんの県議会議員立候補当初より推薦し、長く付き合ってきました。地域の人々の声を聴き、問題を解決に導く、秀でた能力の高さに触れてまいりました。特に、加田さんは、長田区で私たちに、兵庫県から国を変える為に「誇りある地域から国家」「活力ある産業経済」「安心・安全の社会」を理念に邁進する決意を述べられ、「守る」「医療から「治す」医療に変遷するにあたり、この医療機関にもかかわる、世界に誇れる国民皆保険を支える重要性について語られました。小泉政権下での、地域医療崩壊の現実を経験したことから、医療は、最も重要な社会基盤であることは周知のことです。諸問題の課題を理解し、兵庫県民の声として国政に届けることができる参議院議員候補予定者には、加田さんしかいません。長田区医師連盟を代表して、強く推薦いたします。



かだ裕之氏と神戸市医師連盟 長田支部長 岡林孝直